特定非営利活動法人 ドクターMAYA 人道基金
2022年 ニュースレター
http://dr-maya.net/

＜ 嵐 の 中 盤 ＞

日本の医療現場では　依然コロナウイルスが猛威を奮っています。　ウイルス自体の症状はクリニックでは軽い人が多くても、持病をかかえて通院中の人達です。ウイルスが消えた後に持病がその影響で悪化して来院します。

医療スタッフの悩みは尽きません。
あい変わらず、消毒・換気・防御服の日々が続き、疲労が積み重なっています。

そんな中、セラピードッグ達も高齢化で老いの障害を抱えていますが、二頭励まし合って、明るく穏やかに、過ごしています。
ボブがメリーに甘え過ぎて、メリーに避けられていましたが、身体の大きな方が早く老化する為、マイナートラブルが続き、おかしな事にメリーの同情心をかき立てています。　ボブがトラブルで預けられ、帰って来ると、メリーはケージ越しにクンクンなぐさめています。

人間世界では見えない敵との斗いに疲弊し、忘れられがちな「思いやり」「優しさ」が消えてしまった様な事件が、連日報じられています。
そんな中、人と人、生き者同士、あたりまえの関わり方を、思い出させてくれるのが、毅然と優しい、メリーの仕草です。

海の向こうでは、ベトナム人作家　レ・リィ・ヘイスリップのベトナムチャリティー訪問が再開されました。　我々がコロナウイルスにたたきのめされている間も、ベトナムでは病児・孤児たちの斗いは続いています。
我々のチャリティー活動初期は　病院では汚染をまぬがれた井戸水をくみ出すのが一日の始まりでした。枯葉剤汚染の影響は世代を越え、胎児性疾患の多発となって、今もベトナムの人達を苦しめています。

優しさを取り戻したい。

切に願う人達が、ベトナムチャリティ訪問を再開させました。
ささやかなグッド・ニュースです。

＜ 高 気 圧 ＞

３６０°の　空と　海の中で、
独り　全体重をかけて　白い帆を　あげる。
頭上では　ピンクの尾翼の飛行機が　どこかに向けて飛んでいる。
黒い海鳥が　船の前を横切る。

北西の順風を受けて　西に快走する艇は静か。

ジブセールを降ろし、メインセールを引き込む。
突然　船も見えないのに　大きなうねりに揺られる。
海では　予測不能の事が起こる。
しかし、今回は事もなく　通り過ぎた。

心地よく　風と戯れ
帆を又２枚張る。　波の音で進み具合を知る。

快調なセイリング、突風も今日ははいらない。
秋晴れの空、秋晴れの海。
すっかり眠くなってくる。
シングルハンドセイリングで居眠りは禁物。
周辺海域のウォッチは休めない。

懐かしい海、永遠にこのまま海と語り合う気分に傾いてくる。　しかし、そろそろ岸に戻って少休憩が必要。

船は離岸・着岸に技が必要。
風で押し戻され、波で持ち上げられ、桟橋の定位置に着岸する為に、前進・後進・ニュートラル、エンジンと舵をあの手この手　手なずけること 2-30 分。
今日はわが艇を待つギャラリーが桟橋に見えないので、ゆったりと風と波にまかせて、なんと定位置後方にピタリ。　早めに前のロープ・バウスプリング、

後のロープ・スターンラインをつかんで飛び下りる。　　風下のスターンラインを素早く桟橋の係留クリートにクリートヒッチできめる。　よしよし、これで　風に船が引かれて、自分が海に転落する危険は回避。
間を入れず　前バウスプリングを手に　桟橋前方に走る。　クリートヒッチ。
後方を見ると　後スタンラインが船のライフラインに引っかかったままになっている。　またあわてて　後方クリートに走り　止めなおす。
船を風に逆らって細腕で力まかせに引っぱり、数回の奮闘で汗をかき、無事着岸に成功。
額の汗を海風にぬぐってもらい、満足感がこみあげる。

離岸の時　ロープを引き込み、自分も乗船してから突風に見舞われ、船があらぬ方向に回り、あわや桟橋の鋭利な先端に激突して破損しそうになった。
ボートフックで船から桟橋を押し、接触を危機一髪避けた事で　気がゆるみボートフックの回収を忘れた。
見ると　大切な　たった一本だけのボートフックが海に沈みかけていた。
放してはならない舵を放し、ボートフックをひろった。
幸い　船が桟橋にぶつかる寸前に舵を回して桟橋から離れた。
濡れたボートフックを救った事で、今日のセイリングは成功。
前の艇に接触せずに着岸した事で大成功。

波の上はおだやかな順風と秋晴れで　上機嫌。
776 mmHg　24°C　50%